

# やお・かしわら

## こまじんじゃ 許麻神社

許麻神社は、八尾市内に3箇所ある寺内町の1つである久宝寺寺内町の顕証寺の西隣りにあり、創立は不詳であるが、「延喜式」神名帳には小社に列せられており、今から1100年以前より存在していた由緒ある神社である。江戸時代には「久宝寺の牛頭天王」と呼ばれていた。許麻は高麗に通じ、この地は古くは「巨麻荘(こまのしょう)」または「許麻荘」といい、高麗からの渡来民族が多く住み着いていたが、大狛連(おおこまのむらじ)の本拠地だったと言われている。彼らが祖霊として祭祀したのが、後に神社として祀られ、社名に「コマ」が残ったと思われる。また、かつては、この神社と同じ敷地内に「久宝寺観音院」が宮寺としてあり、この寺の創建は聖徳太子が建立された「久宝寺」に遡るが、戦国時代、松永弾正久秀の兵火に罹り、灰燼と



許麻神社の参道と拝殿



最も古い手水舎



鉄筋コンクリート造で再興された社殿

所在地：八尾市久宝寺 5-4-8  
最寄駅：JR 大和路線「久宝寺」駅 北へ約 500m  
見学：境内は自由  
TEL：072-923-4235

化した。幸い聖徳太子自作と伝わる本尊の11面観音は難を逃れ伊賀の国に疎開したが、紆余曲折を経て、現在は同じ久宝寺にある念仏寺に安置されている。久宝寺観音院は寛文7年(1667)再興されたが、明治初年の神仏分離により廃寺となった。社殿は1間社流造銅板葺きで、建立は天正10年(1582)に社殿改建の記録が残っているが、その後幾度となく改建・修復がされたが、近年では昭和44年(1969)不審火で焼失し、現在の社殿は2年後の昭和46年(1971)に鉄筋構造で再興されている。

「手水舎」は久宝寺が寛文7年(1667)に再興された時の「鐘楼」が保存されているものである。神社の通りを隔ててある「許麻橋地蔵」は天文21年(1552)亡父の追善供養のために建立されたが、現在では安産地蔵と言われている。(新田俊明)